



## 答え合わせ・解説

問1	答え 2 令和	「令和」は、日本で初めて日本の古典（国書）から選ばれた元号です。奈良時代の歌人である大伴旅人らが、梅の花を愛でる宴で詠んだ歌の序文にある「初春の令月にして、気淑く風和らぎ」という一節から引用されました。「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められています。
問2	答え 3 校倉造	校倉造は、断面が三角形の木材を井桁（いげた）に組んで壁を作る工法です。湿気が多いときは木材が膨らんで隙間をふさぎ、乾燥すると木材が縮んで風を通すという、自然の作用を利用した高い調湿機能を備えています。
問3	答え 1 国司	国司は、中央政府の意向を地方へ伝え、郡司を管理することで徴税や戸籍管理を行いました。郡司の実務を監視し、定期的に中央へ報告する義務がありました。
問4	答え 2 東大寺	東大寺は、743年の大仏造立の詔により、聖武天皇が中心となって建立されました。この寺は全国の国分寺の総本山としての役割を担い、鎮護国家の象徴として位置づけられました。完成した大仏は、当時の人々の信仰心を集め、国家統一の精神的な拠り所となりました。
問5	答え 3 天平文化	天平文化は、東大寺大仏の建立や唐招提寺のような壮麗な建築、精巧な仏像彫刻などが特徴です。また、『古事記』や『日本書紀』の編纂など、歴史書や文学においても大きな発展が見られました。
問6	答え 4 班田収授法	班田収授法は、戸籍を作成して6歳以上のすべての人々に「口分田」と呼ばれる土地を分け与える制度です。受け取った人は、その見返りとして租・庸・調などの税を納める義務を負いました。本人が死亡したときには、その土地を国に返却する仕組みです。この土地制度により、国家による民衆の把握が徹底されました。
問7	答え 4 正倉院	聖武天皇が亡くなった際、光明皇后が天皇をしのんで東大寺に奉納した品々を収めた校倉造りの建物です。楽器や鏡、美術品など、当時の国際交流を物語る非常に貴重な宝物が数多く保管されています。
問8	答え 1 口分田	口分田（くぶんでん）は、戸籍に基づき、6歳以上のすべての人々に政府が支給した耕作地です。農民はこの田から上がる収穫に対して税（租）を納める義務がありました。しかし、奈良時代に入ると人口が増加したため、国家が支給できる田が足りなくなり、新たな開墾が進められる要因となりました。
問9	答え 2 シルクロード	シルクロードは、東アジアの中国から西アジア、さらにはヨーロッパへ通じる壮大な交易路です。この道を通じて、宝石、織物、香料、あるいは仏教やキリスト教などの宗教、芸術の技法が伝播しました。日本にもその影響が及び、当時の奈良に伝わった宝物の中には、シルクロードを経由して渡来したものが見られます。
問10	答え 4 太政官	太政官は、八省を統括し、国政の運営を担当する最高機関です。長官である太政大臣を中心に、左大臣、右大臣などが政治の実務を行いました。
問11	答え 3 律令国家	律令国家では、公地公民の原則に基づき、戸籍を作成して人々に税を課しました。中央では二官八省が行政を担い、地方では国司と郡司が行政の実務を行うシステムが構築されました。
問12	答え 3 中央集権	唐の律令制度を模範として、戸籍を作成し、国司を地方に派遣して全国を支配する体制を整えました。天皇が全権を握り、官僚を通じて地方まで法律や税を平等に行き渡らせる政治構造です。
問13	答え 4 国司	国司は、国府を拠点として、租庸調の徴収や公共事業、裁判など地方における行政実務を一手に担いました。これにより、中央政府の命令が地方のすみずみまで行き届く仕組みが完成しました。
問14	答え 3 6歳以上	戸籍（庚午年籍など）を6年ごとに作り直し、6歳以上の男女に対して、身分や性別に応じた広さの口分田を貸し出しました。この制度により、政府は確実な徴税を目指しました。
問15	答え 1 シルクロード	シルクロードは「絹の道」とも呼ばれ、中国から中央アジアを経て地中海世界へとつながる壮大なルートです。この道を通じて、ガラス製品やベルシャ風の文様、五絃琵琶といった西アジアの楽器などが日本へ伝わりました。正倉院は、聖武天皇ゆかりの品々を納めた宝庫であり、国際色豊かな天平文化を今に伝える貴重なタイムカプセルとなっています。
問16	答え 3 鑑真	唐の僧である鑑真は、日本の僧からの熱心な招聘に応じ、5度もの遭難や失明という苦難を乗り越えて、6度目の来日を果たしました。日本に正しい仏教を伝え、多くの僧に戒を授けたほか、平城京に唐招提寺を建てて修行の場としました。